

## 第 66 回(平成 29 年度)横浜文化賞 受賞者決定 贈呈式・記念コンサートに市民の皆様(250人)をご招待

横浜市の最高顕彰である横浜文化賞の今年度の受賞者が決定しましたので、お知らせいたします。受賞者は、平成29年8月30日に開催された横浜文化賞選考委員会(委員長:窪田吉信公立大学法人横浜市立大学学長)で選ばれました。

平成29年11月16日(木)に贈呈式を開催し、贈呈式・記念コンサートに、市民の皆様250人をご招待します。

### 1 受賞者

#### (1) 横浜文化賞

芸術、学術、教育、社会福祉、医療、産業、スポーツ振興等の文化の発展に尽力し、その功績が顕著な方々 (各部門別 50音順、敬称略) (年齢は、9月20日現在)

部門	分野	氏名	年齢	職業等
文化・芸術部門	芸術	あらがき つとむ 新垣 勉	64歳	テノール歌手
	学術	ごみ ふみひこ 五味 文彦	71歳	歴史学者
	芸術	よこはましょうねんしょうじょがっしょうだん 横浜少年少女合唱団	1965年 設立	音楽団体
社会貢献・スポーツ部門	国際交流	フランソワ・ウビダ	60歳	駐日ブルキナファソ特命全権大使
	スポーツ	みうら だいすけ 三浦 大輔	43歳	横浜 DeNA ベイスターズ スペシャルアドバイザー

#### (2) 横浜文化賞 文化・芸術奨励賞

文化・芸術部門において、現在活躍中の若年層又は中堅層で、さらに今後の活躍が期待される方々 (50音順、敬称略) (年齢は、9月20日現在)

分野	氏名	年齢	職業等
芸術	あらい たかし 新井 卓	39歳	写真家
芸術	さかた ともき 阪田 知樹	23歳	ピアニスト

### 2 贈呈式・記念コンサート

平成29年11月16日(木)に横浜みなとみらいホール小ホールで贈呈式と、記念コンサートを開催します。この贈呈式・記念コンサートに、抽選で市民の皆様(250人)をご招待します(別添チラシ参照)。

記念コンサート(ヴァイオリン)出演:毛利文香(平成27年度横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞)

お問合せ先
文化観光局文化振興課長 山本 譲治 Tel 045-671-3703

(別紙あり)

# 横浜文化賞

## —【文化・芸術部門】—

### 1 あらがき つとむ 新垣 勉

テノール歌手

沖縄の歌や賛美歌で全国的に知られる、日本を代表するテノール歌手。生後間もなく失明し、壮絶な半生を送る。その体験から、小中学校等において、「命のプロジェクト」と題し、命の大切さを歌と話で伝える活動を続けている。その活動は中学校の英語の教科書でも紹介されている。

市内小学校訪問の他、市内ホールで「歌を身近に」をテーマに、チャリティーコンサート等を多数実施。



### 2 ごみ ふみひこ 五味 文彦

歴史学者

日本歴史学、歴史教育、文化財行政において日本を代表する研究者であり有識者。文学作品や絵画、考古資料などを素材に、日本の歴史を学際的に捉えなおし、精力的に著書を発表し続けている。歴史学において最も権威のある「角川源義賞」受賞(2004)。出版文化に貢献して贈られる「毎日出版文化賞」(2016)を受賞。現在、横浜市文化財審議会会長、横浜市ふるさと歴史財団理事長。横浜の文化財の保護・普及・啓発に貢献。



### 3 よこはましょうねんしょうじょがっしょうだん 横浜少年少女合唱団

音楽団体

1965年設立で半世紀以上の歴史を持つ合唱団。氷川丸を練習拠点とし、開港記念式典に1974年以来、毎年出演するなど、横浜の象徴ともいえるべき合唱団。これまでに1,500人もの卒団生がおり、現在は市内在住の小学校3年生から高校2年生までの約100人が所属。日韓国交正常化50周年記念プロジェクトや、友好都市である中国・上海の合唱団とのジョイントコンサートに参加するなど、市内にとどまらず、国際的にも「横浜」をPRし続けている。



## —【社会貢献・スポーツ部門】—

---

### 4 フランソワ・ウビダ 駐日ブルキナファソ特命全権大使

2011年の着任以来、ブルキナファソと横浜との交流に精力的に取り組む。各国大使館が独立記念日等、最も重要な記念日を祝う「ナショナルデー」を、横浜市内で開催することを決定。以来、数ある大使館の中で、同国大使館のみが毎年、市内での開催を続けている。アフリカ開発会議開催時の一校一国運動における市内小学校との交流を現在も継続的に続ける。本市の第7回アフリカ開発会議誘致にも積極的に協力し、誘致実現への架け橋となった。



### 5 <sup>みうら</sup>三浦 <sup>だいすけ</sup>大輔 横浜 DeNA ベイスターズ スペシャルアドバイザー

ドラフト6位指名で、横浜大洋ホエールズ入団（1991）以来、横浜ベイスターズ、横浜 DeNA ベイスターズと、横浜一筋で25年もの長きにわたり活躍。1998年には背番号18を背負い、自己最多の12勝をあげ、リーグ優勝と日本一に大きく貢献した。通算勝利数172勝。アテネオリンピック出場（2004）。2016年、現役引退時のセレモニーでの「これからも三浦大輔はずっと横浜です」とのコメントは、日本中に「横浜」を印象づけた。



©S.Yamagishi

# 横浜文化賞 文化・芸術奨励賞

---

1 <sup>あらい</sup> <sup>たかし</sup>  
**新井 卓**

写真家

誰でも気軽に写真撮影ができるこの時代に、あえて写真黎明期の撮影技法（ダゲレオタイプ）を独自に再現しながら作品作りに取り組む気鋭の若手写真家。横浜に事務所を構え、横浜美術館の若手作家支援プログラムでの滞在制作、市内中学校でのワークショップの実施など、横浜との縁も深い。写真家の登竜門「第41回木村伊兵衛写真賞」受賞。これまでの活動の集大成として、2017年に市民ギャラリーあざみ野で個展「ある明るい朝に」開催。今後も横浜の写真文化を牽引していくことが期待される。



©Anton Orlov 2015

2 <sup>さかた</sup> <sup>ともき</sup>  
**阪田 知樹**

ピアニスト

現在、最も注目を集める若手ピアニストの一人。中学2年生で、横浜みなとみらいホールが会場の「全日本学生音楽コンクール」中学校の部で第2位に輝き（2007）、19歳で第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞（2013）。ハンガリー開催の「フランツ・リスト国際ピアノコンクール」でアジア人男性として初めて第1位を獲得（2016）するなど、数々の国際音楽コンクールで華々しい成績を残し、大いに話題を集める。市内での演奏活動にも意欲的で、今後の横浜の音楽文化の振興に向けて、活躍が期待される。



©HIDEKI NAMAI